

# ながおか・放課後子ども通信

令和8年 1 月 19 日 発行 (vol.11) 長岡市教育委員会 子ども未来部 子ども政策課 ☎0258(39)2393

長岡市では、放課後の子どもたちの安全・安心で健やかな居場所づくりを目的に「放課後子ども教室推進事業」を行っています。

「放課後子ども教室」は放課後や長期休業日等に小学校やコミュニティセンターで地域の人材を活用して、学習活動やスポーツ・文化伝統・造形などの体験活動、交流活動などを行うものです。参加を希望する小学生を対象とし、費用は原則無料です。「地域の中で地域の子どもたちを見守り育む」という理念のもと、地域コミュニティ推進組織に運営を委託し、地域が主体となり事業内容を考え実施します。

令和7年度は市内21教室(21小学校区)で開催しています。取組の一端を紹介します。

## 「学校とともにある地域づくり」を継承する

日越コミュニティセンター長 長部 繁夫

日越コミュニティセンターでは、令和4年度から「放課後子ども教室」がスタートしました。きっかけとしては地域の人材を活用して、多様な活動や体験を行う「学びの場」を提供することが、子どもたちの安全・安心で健やかな居場所づくりにつながるという考えに賛同したからと聞いています。

背景として、明治22年に日本の「日」、越後の「越」から「日越村」が成立して以来、地域と学校が一体となり教育村として教育に力を入れてきた歴史があります。その精神は現在でも継承されており象徴的なものとして「荒川基金」があり、学校教育への支援を行っていることなどが挙げられます。

現在、科学実験、けん玉教室、ハンドベル、バルーンづくりと教室メニューはまだまだ少ないですが、地域のネットワークを通じて素晴らしいアドバイザーの方からご協力いただいています。また敬老会での発表など、少しずつ活動の幅を広げているところです。

今後も地域と学校との連携を深め、教室の充実をはかっていきたいと思います。



【敬老会でハンドベル演奏】

日越コミュニティセンター主事 野上 慶子

放課後子ども教室を立ち上げて4年目になります。

当初より続けているけん玉教室は子どものやる気・成長が一目瞭然で、『楽しい』『できるようになりたい』という思いだけで夢中になって練習しています。悔し涙を見せる子、技ができた時の達成感を体全部で表現してくれる子、素直な可愛い姿は応援したくなります。

私も子どもたちから技のコツを教えてもらったり、子ども vs 大人対決で意地になったり、これからも子どもたちの成長を楽しんでいきたいと思っています。

## 放課後子ども教室 ～プログラムの一部を紹介します～



【バルーン】



【わくわくアート】



【マジック】



【自然エネルギー】



【囲碁】



【造形大生とフォントかるた】



【紙芝居】



【針を使わない手芸】



【書き初め】



【モルック】



【クリスマスケーキづくり】



【バドミントン】



【わんぱく教室】



【よさこい】



【お茶】



## 放課後子ども教室 ～教育活動サポーターの声～

絵本作り教室（大島） 学習アドバイザー 片桐 佐利



【文章が膨らむように面談】

20回の活動を通して、世界で1冊の自分の絵本を創作することを目標としています。家族との暮らしの中で、感動や幸せと感じる体験に目を向けています。一人一人の文章が膨らむように、面談し工夫しています。教室の後片づけをしてくれた女子にお礼を言うと、「どういたしまして」という言葉が返ってきました。最後の出版記念会では、「和顔愛語のくらし」を子どもたちにわかりやすい言葉で伝えたいと思っています。

いけばな教室（黒条） 学習アドバイザー 佐藤 淳一



【子どもの求めに応じてアドバイス】

いけばな池坊を放課後子ども教室で教えはじめて3年目を迎えています。現在、1年生から5年生の11名が学んでいます。型にとらわれず、基本的に一人一人の感性を引き出すように心掛け、日常生活の中に、暮らしの一部としていけばながあり、子どもたちがいけばなを楽しんでくれることを目指しています。今後も日本の伝統文化であるいけばなを多くの子どもたちに紡いでいきます。

工作教室（関原） 安全管理員 佐藤 信子



【子どもたちの中で支援するサポーター】

月1回1時間の教室を1～3年生30名程が楽しみにしています。11月は、「かぜではしるゴーゴーカート」を作りました。三浦先生から手順や作り方の説明があった後作業です。私は1年生5名のグループの支援をしています。会話しながら作業のお手伝いをし、けが防止に努めています。子どもたちと交わるのが楽しく、同級生にも声をかけ共に活動しています。

放課後子ども教室の活動を充実・発展させるため、より多くの皆様からお力添えいただきたいと考えています。下記の事項に興味のある方は、お気軽にご相談ください。

- ・地域が主体となつての放課後子ども教室の開設
- ・趣味・特技・経験を生かして学びの機会を提供する学習アドバイザー
- ・子どもの見守りをしたり一緒に活動したりする安全管理員

問い合わせ先：子ども政策課児童育成班 Tel0258(39)2393

## 子どもも大人も笑顔で繋がる「なかのん食堂」

なかのん WeServe の会 会長 原田 敏



【みんな歓声！なかのんオムライス】



【男性ボランティア奮闘！なかのんクッキーづくり、栗おこわ、さんま塩焼き等】

「中之島地域に子ども食堂を作りたい!」と思った大人達が集まって、令和6年7月にオープンし、毎月1回開催しております。名称は、地元中之島のキャラクター名を使った「なかのん食堂」です。子どもたちも“なかのん”が大好きで中之島愛に溢れていることを感じます。中之島産のお米や野菜のご寄付、長岡市からの助成金や共同募金会からの補助金、民間団体からのプレゼントなど、社会全体から子ども食堂に温かい応援をいただいていることを子どもも大人も共有しながら、美味しく楽しい「なかのん食堂」を開催しています。

- ・開催日：毎月第3土曜日 11時30分から13時30分
  - ・会場：中之島コミュニティセンター和室(平均50食)
  - ・対象：中之島地域小中学生登録制ライン申し込み
  - ・参加費：子ども無料 大人(親・先生)・スタッフ300円
- ◇問い合わせ先：会長 原田 敏(090-2310-9830)

## 「児童会館・児童クラブ」での活動の様子を紹介します

〈コミュニティセンター作品展で作品展示〉



【設置された作品コーナー】

子どもたちが児童会館を利用する際の遊びの一つに工作があります。大積児童会館では、その作品をコミュニティセンターの作品展で展示しました。ハロウィンタワー、紙コップフラワーなど時間をかけて作ったものです。来場された方が「すてきですね」とスタッフに声をかけてくださり、その話を聞いた子どもがとてもうれしそうな顔をしてたとのことでした。

子どもと大人が互いの存在を感じ合える機会となっています。

〈おやさいクレヨンを寄贈していただきました〉



【クレヨンを使う子どもたち】

12月3日、富国生命保険相互会社新潟支社より長岡信用金庫を通じて、市内の児童会館・児童クラブへおやさいクレヨン200個を寄贈いただき、各児童会館・児童クラブへの配布しました。おやさいクレヨンは、米ぬかから採れた米油とライスワックスをベースにしたものです。

贈呈式後、クレヨンを使って塗り絵をしている子どもたちの楽しそうな姿に、会場にいた大人の表情も和らいでいました。